

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者がやりたいと思うことをできることに変える支援に取り組み「一人ひとりの自己実現」がなされています
	内容	利用者は、特別支援学校を卒業したばかりの方から高齢の方まで様々ですが、事業所では一人ひとりの能力に応じて、できることを尊重し、チャレンジを促しています。トライしたいと思うことができるようになるのは、本人にとっての自信につながると思われます。さらに法人では就労継続支援A型、就労支援センターなども展開しており、利用者のステップアップの道筋を立てることができます。当事業所からA型事業所で働いた後、一般企業に就職した実績もあります。個々に応じてチャレンジを促すことで「一人ひとりの自己実現」がなされています。
2	タイトル	長年培ってきた地域に根差したネットワーク力により、コロナ禍においても新規販路の獲得や他施設との良好な関係性が育まれています
	内容	当法人は小平市で30年以上にわたり障がい分野のサービスを展開してきました。このため、地域において幅広いネットワークを築いています。新型コロナウイルスの蔓延により販売会などは中止となり、クッキーやパンの販売にも影響ありましたが、地域におけるネットワーク力を軸に、委託販売先を確保し、企業の福利厚生としてクッキーを納品したり、児童養護施設での販売など地域との良好な関係性があるからこそ、新しい販路も確保しています。公園清掃では利用者の社会参加の機会となっており、利用者が地域の一員として活躍をしています。
3	タイトル	個別支援計画を丁寧に作り上げPDCAサイクルに基づいて着実に計画を実施することにより、利用者の意識や作業の向上に繋がりました
	内容	昨年度の事業計画では、当事業所は重点課題としてPDCAサイクルの実施による利用者支援の充実を挙げています。個別支援計画は、担当の職員が原案を作成しサビ管が確認をして作成しています。計画は半年に1度見直しを行っていますが、その際に支援に携わっている職員がケース記録などを見ながら、計画の評価を行っています。さらに、時には家族も同席して利用者本人と計画の振り返りをし、次の計画を立案します。PDCAサイクルに基づいて作成された支援計画に沿って支援をすることにより、利用者の意識、作業の向上に繋がる成果をあげました。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	管理職と一般職員のパイプ役となるような事業所運営にも携わることができる、リーダー職員の育成が期待されます
	内容	事業所の組織は管理者、それぞれのフロアの作業リーダー、一般職員で構成されています。作業面においてはそれぞれの役割が果たされていますが、事業所の運営面においては、管理者が一手に担っており、さらに事務量について決まった職員の負担になっていることが職員アンケートからもあがっています。ベテランの職員も多く、定着率は悪くはありません。こういった状況からも、職員一人ひとりの特性や仕事への能力などを見極め、事業所内でステップアップを図る仕組みを構築し、運営面でのリーダーの育成が期待されます。
2	タイトル	毎日のケース記録のとり方を工夫し、利用者の全体像を把握することで支援内容の底上げを図る取り組みが期待されます
	内容	事業所では、作業に対する支援ばかりではなく、生活面における支援も行っています。しかし、ケース記録については作業面を中心とした記録になっており、事業所でも本人の1日の様子がわかるように記録に残すことを課題として挙げています。利用者の状態によって日々支援する内容は異なるかと思われます。利用者に変化が生じた時にその対応などについて記録に残し、まとめることにより、支援内容の底上げにも繋がるものと思われます。どの職員でも同じように対応ができるよう、作業と生活面のメリハリをつける記録のとり方への工夫が期待されます。
3	タイトル	事故防止や災害への対応などリスクマネジメントへの意識づけを職員一人ひとりに培う仕組みづくりが期待されます
	内容	事業所ではヒヤリハットなどを集計し分析する仕組みがあります。こういった日々の取り組みにより、事故防止へ繋がる取り組みは行われています。事故が起きた際には報告書に基づいて職員全員で話し合いも行われていますが、事故に対する原因の究明や事故防止について取り組まなければならないことについて、職員一人ひとりが自発的に考察することが少ないことを課題として挙げています。コロナ禍における感染対策などはしっかりとルール化して実施されていますので、事故防止や災害対策などリスクマネジメントへの深化への取り組みが期待されます。